

第3次基本集計結果の概要－従業員・通学地集計－

・小平市の昼間人口ⁱ

小平市の昼間人口は 164,571 人で、前回の国勢調査（平成 17 年）に比べ、4,072 人 2.5%の増加となった。昼間人口指数ⁱⁱは、88.7（26 市中 13 番目）で、平成 17 年に比べ 1.4 ポイント上昇した。

・東京都の昼間人口

東京都の昼間人口を地域別にみると、港区が最も多く 883,894 人（常住人口の 4.4 倍）であり、②番目に千代田区 819,165 人（常住人口の 17.4 倍）、③番目に世田谷区 808,658 人（常住人口の 0.9 倍）となっている。

また昼間人口指数が 100 を上回っているのは、市部では立川市（113.2）、武蔵野市（110.6）、の 2 市である。

・市内在住の就業者の 64.0%が市外へ通勤

市内在住の就業者 81,400 人のうち、52,068 人（64.0%）が市外へ通勤、市外から小平市への通勤している就業者は 27,813 人で流出超過就業者は 24,255 人。

・市内在住の通学者（15 歳以上）の 69.6%が市外へ通学

市内在住の通学者 14,754 人のうち 10,270 人（69.6%）が市外へ通学している。市外からの通学者は 10,414 人で、市内の学校への通学者は小平市内常住者も含めて 14,786 人である。平成 17 年に比べると、市外への通学者は 1,066 人（11.6%）増加し、市外からの通学者は 658 人（△6.6%）減少した。

・通勤・通学先（15 歳以上）は新宿区が一番多い。

通勤先・通学先の区市町村をみると以下の通りとなる。

| | 通 勤 先 | | 通 学 先 | |
|-----|-------|---------|-------|-------|
| 1 位 | 新 宿 区 | 4,603 人 | 新 宿 区 | 970 人 |
| 2 位 | 千代田区 | 3,611 人 | 小金井市 | 737 人 |
| 3 位 | 港 区 | 2,612 人 | 八王子市 | 658 人 |
| 4 位 | 国分寺市 | 2,528 人 | 国 立 市 | 559 人 |
| 5 位 | 立 川 市 | 2,176 人 | 国分寺市 | 440 人 |

・小平市への通勤・通学者（15歳以上）は近隣市から。

小平市への通勤・通学者（15歳以上）は以下のとおりとなる。

| | 通 勤 ・ 通 学 者 | |
|----|-------------|-------------------|
| 1位 | 東村山市から | 4,045人（うち通学者434人） |
| 2位 | 東大和市から | 2,639人（うち通学者327人） |
| 3位 | 国分寺市から | 2,253人（うち通学者639人） |
| 4位 | 立川市から | 1,753人（うち通学者319人） |
| 5位 | 東久留米市から | 1,709人（うち通学者226人） |
| 6位 | 西東京市から | 1,615人（うち通学者286人） |
| 7位 | 小金井市から | 1,161人（うち通学者307人） |

また、区部からの通勤・通学者は3,992人（構成比10.8%）、市町村部からは23,817人（構成比64.3%）他県から9,241人（構成比24.9%）となっている。

i 昼間人口と夜間人口

従業地・通学地による人口（昼間人口）とは、従業地・通学地集計の結果を用いて、次により算出された人口である。ただしこの昼間人口には、買物客などの非定常的な移動については考慮していない。また、常住地による人口（夜間人口）とは、調査の時期に調査の地域に常住している人口である

(A市の昼間人口の算出方法)

A市の昼間人口=A市の常住人口-A市からの流出人口+A市への流入人口

ii 昼間人口指数

昼間人口指数は、常住人口100人当たりの昼間人口の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している

(A市の昼間人口指数の算出方法)

A市の昼間人口指数=A市の昼間人口/A市の常住人口×100